

視察先リスト（予定）

7月8日（月）

ウランバートル

JICAモンゴル事務所

①経済成長・主要産業

②エネルギー政策や再生可能エネルギー

③都市開発や都市化の進行

JICA は、アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中近東、東欧の約 155 か国に対し協力を実施している。JICA モンゴル事務所は 53 番目の在外事務所として 1997 年 1 月 1 日に設立された。モンゴル事務所には現在、所長を含め約 20 名の日本人、現地職員が勤務している。在外事務所の強みは、何よりも現地の実情をいち早く、直接知り得ることである。これを生かして相手国がどのような協力を求めているか、そのニーズを的確に把握するとともに、相手国政府機関との協議を通じて具体的な協力案件を形成している。また、より効果的・効率的な事業を行うために、相手国政府や NGO、ほかの援助国・機関などのパートナーとも協調を進めている。

7月8日（月）

ウランバートル

Unigas

①エネルギー事情

②事業内容と持続可能なビジネスモデル

(株)サイサンのグループ会社。2004 年の設立。モンゴルの市場に於いて、LP ガスを自動車、工場、飲食店、一般の家庭に導入し、LP ガスの発展を促進する目的で設立された LP ガスの輸入・販売会社。2014 年に倉庫の容量を 2 倍に増加し、オユトルゴイ鉱山の開発やシャングリラホテルの建設にも貢献した。2017 年にはウランバートルと地方の支店数が合計 17 か所となった。モンゴルのトップ 100 企業に 5 回選出され、モンゴル発のエコシンボル認定企業になっている。
※ホームページ：<http://www.unigas.mn/>

7月8日（月）

ウランバートル

新モンゴル日馬富士学園

①教育制度や教育の質

新モンゴル日馬富士学園は、元横綱 日馬富士関（日馬富士公平氏）とガルバドラッハ新モンゴル学園理事長との協力で 2018 年に開校した、日本式教育を導入する小中高一貫校である。小中高一貫校で約 1,600 人の児童生徒が学び、日本の伝統や礼節、日本語も教えている。モンゴルの教育制度は、義務教育が 9 年間、高等教育が 4～6 年間となっている。

義務教育

義務教育は、6 歳から 15 歳までの 9 年間で、小学校（5 年間）と中学校（4 年間）からなる。小学校は就学前教育と連続して行われ、モンゴル語、算数、理科、社会、体育、芸術、家庭科などの教科が必修となっている。中学校では、これらの教科に加えて、英語、情報技術、経済、法律などの教科が必修となっている。

高等教育

高等教育は、大学、専門大学、カレッジなどで行われ、学士課程は4～6年間となっている。大学は、学部課程のほか、大学院課程（修士課程、博士課程）も設置されている。専門大学は、技術や職業に関する教育を行う機関で、カレッジは、短期間（2～3年間）の専門教育を行う機関である。

教育の質

モンゴルの教育の質は、近年、向上傾向にある。2023年のPISA（国際学習到達度調査）では、読解力、数学力、科学的リテラシーのいずれにおいても、前回調査（2018年）から順位を上げている。しかし、依然として課題も残されている。例えば、教員の質や教育施設の整備、教育の機会均等などが挙げられる。モンゴル政府は、これらの課題を克服するため、以下の取り組みを進めている。

- ・教員の資質向上のための研修の実施
- ・教育施設の整備
- ・教育の機会均等の推進

モンゴル政府は、教育の質の向上を図ることで、国民の学力向上と人材育成を進め、同国の経済発展と社会の進歩につなげたいと考えている。

7月9日(火)

テレルジ

国立公園テレルジ

①自然保護地区や環境保護政策

首都ウランバートルから約70 km。古代、火山帯であった景勝の地テレルジ。森林に囲まれ、ウランバートルへと注ぐトーラ川が流れ、奇岩、奇石の連なりが見渡せる。森林のさらにさらに奥深くには、未だ地図に載っていない幻の淡水湖も。6～8月初旬にはいろいろな草花が咲き、あたり一面がお花畑になる。

モンゴルは、広大な国土に豊かな自然が残る国である。しかし、近年、鉱業開発や放牧過剰、気候変動などの影響により、自然環境の破壊が進んでいる。モンゴル政府は、これらの課題に対応するため、自然保護区の指定や環境保護政策の強化などの取り組みを進めている。

自然保護区

モンゴルには、2023年現在、101の自然保護区が指定されている。これらの保護区は、国立公園、自然保護区、自然記念物保護区の3種類に分類される。

国立公園は自然の景観や動植物の多様性を保護することを目的とし、自然保護区は特定の動植物や地形を保護することを目的とし、自然記念物保護区は特定の自然物や文化財を保護することを目的としている。

自然保護区の課題

モンゴルの自然保護区には、以下の課題も残されている。

- ・違法な採取や狩猟などの問題
- ・放牧過剰による環境破壊
- ・気候変動による影響

モンゴル政府は、これらの課題の解決に向けて、以下の取り組みを進めている。

- ・保護区の監視体制の強化
- ・地域住民の理解と協力の促進
- ・気候変動への適応策の強化

環境保護政策

モンゴル政府は、2017 年に「環境保護法」を改正し、環境保護の強化を図った。この改正では、環境の保全や汚染の防止、環境教育の推進などの取り組みが強化されている。また、モンゴル政府は 2030 年までに、気候変動への適応と緩和を図ることを目標とした「気候変動国家戦略」を策定している。この戦略では、再生可能エネルギーの利用拡大や、森林の保全・再生などの取り組みが盛り込まれている。

モンゴル政府は、自然保護区の指定や環境保護政策の強化などを通じて、自然環境を守り、持続可能な発展を実現したいと考えている。

7 月 10 日(水) バガノール県 バガノール社・バガノール鉱山(石炭)

①豊富な鉱物資源の開発と利用

モンゴルは鉱物資源開発により注目度を高めているが、1990 年代まで情報公開がされず、未知の国だった。ソ連崩壊後に民主主義・市場経済に移行したモンゴルは、政府が外資導入に積極的となり、日本を含む多くの国による資源調査が行われ、また、新たな鉱山開発も始まり、世界有数の資源大国である可能性が明らかになってきている。

モンゴルで採掘される銅鉱石、金鉱石、石炭を対象にした大規模な鉱山は複数あるが、他にも銀鉱石、鉄鉱石、タングステン、ウラニウム、蛍石、レアアース、石油など、様々な鉱物の採掘も行われている。

バガノール社・バガノール鉱山（石炭）

同社は 1978 年に設立され、年間生産量は 400 万トンと、モンゴルの発電燃料の 60%を供給している。また、モンゴル国内の石炭需要の約 50%を現在供給している。同炭鉱開発にあたり、日本は 1996 年と 1997 年にプロジェクト借款を実施しているほか、2020 年には日本の国際協力銀行(JBIC)の融資により、鉱山機器 13 台が整備され、生産能力が向上した。

7 月 10 日(水) 中央県セルゲレン村 サルキット風力発電所 Clean Energy 社

①エネルギー政策や再生可能エネルギー

モンゴル初の風力発電所サルキットは、トゥブアイマグのセルゲレン・ソムに位置しており、2013 年 6 月に運転を開始した。この発電所は CO2 排出量を 18 万トン削減し、石炭の燃焼を 12 万 2 千トン削減し、年間 160 万トンの真水を節約することができる。また、中央送電網に 1 億 7,400 万 kWh のエネルギーを供給し、中部地域のエネルギー消費量の 3%を占める約 8 万世帯の年間電力消費量を供給している。

7月10日(水)

ウランバートル近郊

家庭用太陽光発電システム現場

①エネルギー政策や再生可能エネルギー

モンゴルは、年間平均日照時間が3,000時間を超える。2023年1月時点で、モンゴル国内の太陽光発電設備の合計出力は約1,000MWに達している。モンゴル政府は、2030年までに発電電力量に占める再生可能エネルギーの構成比を50%に引き上げることを目標としている。そのため、太陽光発電の更なる普及に向けた取り組みが進められている。

モンゴルの発電設備は主に3つのタイプに分けられる。

＜メガソーラー＞

1MW以上の大規模な太陽光発電施設のことで、ウランバートル市近郊や地方都市に建設されている。

＜ソーラーシェアリング＞

農地や牧草地などの未利用地に太陽光発電パネルを設置し、農業や畜産と併用する発電方式。

この方式は農村部を中心に普及している。

＜家庭用太陽光発電システム＞

住宅に太陽光発電パネルを設置し、自宅で使う電力を賄う発電方式。

7月11日(木)

ウランバートル

ナーダム祭

ナーダム祭は、年に一度行われる国民行事で、ブフ（モンゴル相撲）、競馬、弓射の3つの競技が行われる。2010年には、ユネスコの無形文化遺産に登録された。この祭りは、毎年7月11日から3日間にわたって首都ウランバートルの中央スタジアムで開催される。ナーダムはモンゴル各地で行われているが、最も大きいものが国家主催の国家ナーダムで、競馬は専用の競馬場で開催される。

7月11日(木)

ウランバートル

G0BI カシミア工場

ウランバートルにある「ゴビ・カシミア・ファクトリーショップ」(G0BI)は、1980年に日本の無償資金援助で設立されたモンゴル初のカシミア工場。現在でも日本の最先端の紡績機械を導入し、カシミアの製造工程を見学できる唯一の工場として知られている。工場直営の「ゴビ・カシミア・ファクトリーショップ」では、実物大の毛布からマフラー・手袋まで、上質なカシミア製品を豊富に取り揃えている。シーズン限定のデザイナーズコレクションや、シルクとカシミアという繊維の最上素材を組み合わせたニューコレクションなどが欧米諸国だけでなく、日本や韓国、香港、台湾などで、おしゃれに敏感な20-40代の働く女性たちから絶大な支持を受けている。